

## 定住外国人の自立した学習を目指した試み —周りの日本人を巻き込む習慣をつくるテキスト作り—<sup>1</sup>

A trial of self-supported learning method for permanent foreign residents

青柳 妙子<sup>2</sup>

AOYAGI Taeko

### Abstract

Foreign spouses who live in the Japanese community believe that it would take their whole life for them to master Japanese language. Even after they've learned to speak Japanese to some extent, they sometimes suffer disadvantages, because their Japanese has some errors, or they don't know Japanese cultural rules. But people around them, including their family members, wouldn't correct their mistakes as long as they can communicate with each other. So we've invented a new learning method in which Japanese learners can improve their Japanese skills with Japanese native speakers around them. They are supposed to be given chances to notice their errors in their Japanese. Even if they don't find their misusages at that time, they can still find evaluate their Japanese abilities by their own, by having Japanese people around them filling out a questionnaire for them. Here's the report of the process of making a new textbook to achieve this goal.

キーワード：誤用訂正、気づき、周りの日本人、自己評価、自立学習

### 1. はじめに

山形県内で日本語学習をしている外国人の中には主婦の立場にある学習者（在留資格は永住者、日本人の配偶者等）が圧倒的に多い<sup>3</sup>。国際結婚して半永久的に日本人の隣人として生活していこうとしている人たちである。しかし、ある程度日常会話の日本語ができるようになると、本人たちが「間違っていたら、直してもらいたい」と希望するにも拘わらず、内容が通じれば周りの日本人は誤用を訂正しなくなる。そのため間違っただまの日本語が定着してしまうことが多い。そして、間違いを指摘してもらえる場は地域の日本語教室のみという場合が多い。また、そこで使用されているテキストは、教師が「教える」、学習者が「習う」ことが前提となっているので、そのテキストにしたがって授業が進めら

<sup>1</sup> このテキスト作りはNPO法人ヤマガタヤボニカの研究活動として大竹美知子・長井恭子と共同で開発しているものである。

<sup>2</sup> 山形大学国際センター非常勤講師

<sup>3</sup> 山形県文化環境部県民文化課国際室 山形県の外国人登録者 平成18年12月末7,548人のうち永住者と日本人配偶者等の在留資格を合計すると3,945人で構成比は52.3%を占める。

れている限り、学習者が積極的に自分の誤用を訂正してもらうことは難しい。学習者が、自分で発話した日本語の不安定さに気づき、不安になったらすぐ確認できる環境があるのが望ましい。

そこで、学習者が自ら動くことで、つまり、自らの間違いを周りの日本人に指摘してもらう機会を意図的に作ることで、日本語の発話を訂正してもらえ環境ができるのではないかと考えた。周囲の日本人に訂正してもらう習慣を身に付ければ、日本語教室に来なくても学習者の日本語は磨かれるはずである。しかし、その習慣を身に付けるためには、教室で、従来とは異なるテキストを使って、「周囲の日本人に訂正してもらう方法」を学習する必要がある。本稿は、テキストのサンプルが完成するまでの作成過程とサンプルについて記すことを目的とする。

## 2. 学習者の日本語使用上の問題点

山形で日本人と結婚している外国人女性（以下、学習者）のほとんどの人が「日本語の勉強は一生だ」と考えている。学習者の中には日常生活のコミュニケーションはなんとか取れているが、誤用の化石化がひどかったり、文法面、語彙面などで形が整っていなかったりする人がある。しかし、コミュニケーションが取れていれば、家族や友人、周りの人たちは敢えて日本語を正すことはしない。そして、コミュニケーションが取れているので学習者自身は気がついていないが、そのことで不利益を被っている場合がある。また、学習者自身が間違いだと分かっているにもかかわらず、癖になっていて、その間違いの大きさや使ったときの聞き手に与える印象が好ましくないことがあまり認識されていない場合も多い。学習者の周辺にいる40歳代～50歳代の日本人（日本語教師4人、日本語ボランティア1人、日本人の家族1人、日本人の友達1人）から問題点について座談会形式で1回聞き取った結果、下記のような例が報告された。

- (1) 学習者の日本語があまりに不完全な場合、話し相手である日本人は余裕のあるときや会話が必要なときは相手をするが、余裕がなかったり、必要性がないと判断した場合は相手にしたがる。聞いて理解するのに疲れるので、パーティーの二次会まではいいが、気を遣わずに話したい三次会等には誘わない。
- (2) 話の内容が複雑になると会話の時間も長く、内容も深くなり、学習者にとって話すのが大変になる。日本人側にとっては学習者の発話の内容を聞き取って理解するのが難しくなる。学習者に意見を言っても、どのくらい理解されたかが不安なので、初めから込み入った話やデリケートな話はしない。
- (3) もっと婉曲的な話し方をすれば好感をもたれるのに、そのような話し方をしない。または、できない。その結果、話し相手である日本人に悪印象を与えてしまったり、望まない事態を生じたりしてしまう。買い物でのクレームのつけ方、頼み方等、都会なら大丈夫な言い方も山形では傲慢に感じられる場合がある。
- (4) 不適切な日本語の使い方で、日本人と摩擦を起こす可能性があるのに、そのことに気がつかないで、会話を進めていることがある。たとえば、理解したことを表すのに「わかりました」と言うべき場面で「わかります」を連発して日本人側を不快に

させてしまうことがある。

日本語の授業においては、既成のテキストでも場面や語彙をできるだけ学習者に合わせ、置き換えて使用しているが、新しい学習項目に重点が置かれるので、学習者の誤用の訂正については長い時間をかけにくい。

### 3. テキスト作成に至るまでの経緯

#### 3.1. 市販のテキストを使用しての試み

2で挙げたような学習者の日本語使用の問題点を確認したあと、まず市販のテキストを使用しながら解決しようと試みた。

##### 3.1.1. 市販の教科書分析

市販のテキストでは、学習者が自らの発話を振り返り、それを新しい学習項目の導入につなげているものが多い。教師が学習者の普段の発話を確認しようと考えた時にテキスト内で使いやすいコーナーがある。そのコーナーで学習者の発話を観察することにより誤用の確認、指摘、訂正、その他のことができる。以下ではそれらのテキストのコーナーがどのような意図で設けられているかを見ていく。

対象：初中級～中級のテキスト7冊。新しい項目を学ぶ前に、学習者が普段使っている日本語を確認できる活動のコーナー。

方法：各活動の目的や進め方を書いている箇所を抜き出す。

以下、テキスト名／コーナー名／コーナーの目的の順に示す。

『日本語中級J 301』／「読む前に」／「学習者の持っている背景となる知識を引き出して活性化することを目的としています。」

『新日本語の中級』／「学習する前に」／「学習に先立ち、その課の話題、内容についてどのくらい知っているのか、自国の事情はどうなっているのかなど、クラスの中で話し合い、確認するために設けた。ここに挙げたような事柄を巡って意見や情報を交換し、経験を共有することによって、課に対する動機を高め、学習効率を上げることをめざしてほしい。」

『テーマ別中級から学ぶ日本語』／「いっしょに考えましょう」／「テーマ導入のための質問が設けられている。」

『聞いて覚える話し方 日本語生中継』／「ウォーミングアップ」／「課で取り上げられている場面で自分がどのように行動するかを考えます。」

『日本語集中トレーニング』／「ストーリー・ピクチャー」／「絵を見て、何が始まるかを想像して言ってみましょう。またどんなストーリーかを考えましょう。」

『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』／「ウォームアップ」／「ロールプレイへの動機付けや楽しい雰囲気作りをする。本書にあるような質問をすることでロールプレイの場面に入りやすくなる。」／「ロールプレイ」／「教師は学習者の自発的な発話や間違いを大切にします。その中に『学習者の気づき』があり、次のステップ

があります」

『ジェイ・ブリッジ』／「はじめに」／「学習者がまず自分でやってみること、そしてその結果、『自分に欠けているものは何か』『どうすればもっとよくなるのか』といった点に自分で気づくことが重要です。ここでうまく話せず、苦しめば苦しむほど、この後の〈聴解〉で学習のポイントがより強く意識化されるからです。」

### 3.1.2. 市販のテキストの問題点

上記のテキストのコーナー（新しい学習項目を学習する前に学習者の日本語をチェックできる可能性のある活動があるコーナー）では、学習者の日本語の誤用を訂正することより話題に対する知識の活性化や動機付けが目的になっている。時として学習者は話しっぱなし、教師は聞きっぱなしになりがちである。もちろん活動の中での誤用訂正は可能であるが、目的にはなりにくい。

上記のテキストの中で『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』は学習者の「気づき」で自分の誤用に気づく可能性があるし、教師から指摘される可能性もある。また『ジェイブリッジ』でも同様のことが言える。そのような場合、正解を教師に聞くことも考えられるだろう。しかし、誤用の訂正がそのコーナーの目的ではないので、どうしても新しい学習項目を学習することに重点が置かれる。

学習者が日常会話で使用している日本語の誤用訂正に主眼を置いてあるテキストが必要だと思われる。

### 3.2. 教室活動としての誤用訂正の試み

筆者はテキストの使いやすいコーナー（3.1.1.）での発話以外にも以下の活動を試みた。

- (1) 授業中、学習者が自分の発話を録音したものを聞いて、言語形式、ディスコースの組み立て、発音等をモニターした。学習者が最初から気がつくこともあったが、ほとんどは教師に指摘されることが多かった。しかし指摘されると、同じ誤りを次回から本人自身が指摘できた。繰り返される誤用に本人が気づき、また同じ場面や同じ語彙、文法を使うときに注意する癖がついたので、これはある程度効果があったと考えられる。
- (2) テープやテキストのモデル会話を聞いて、または読んで、学習者自身の日本語と比較した。この方法で学習者は自分の発話とモデルの会話の違いは認識できたが、自分の日本語を積極的に変えようという動機付けにはならなかった。
- (3) 自分の言いたいことを事前に文字化してから発話した。しかし誤用の訂正はその場限りで、継続維持が難しかった。また、文字化することは書くのが苦手な学習者にとって学習動機さえも弱める原因になった。
- (4) 録音した自分の発話を聞いて文字起こしした。この作業は時間がかかり、負担が大きかったせいか学習者に大変不評であった。そのためか、なかなか進まず、効果はあまりよく分からなかった。

- (5) 学習者が日記を書き、教師が定期的にチェックした。学習者が書くことに時間を使う割には、訂正を見て、その場限りの反省だけで終わることが多かった。誤用の認識の継続が難しかった。しかし、自ら調べた語彙が増えたことが成果であった。
- (6) 学習者の誤用の発話を教師が記録し、教師が誤用の場所を指摘して学習者に気づかせ、その記録をまとめておいた。毎回同じ間違いを指摘されることを意識しだすと効果があったようだ。

#### 4. サンプルを作成するまでの過程

最初は、どんな場面で不利益を被っているのか、学習者を対象にアンケートを取ろうということになった。しかし、アンケートを作成する過程で、学習者の周りの日本人（日本語教師、日本語ボランティア、日本人家族、日本人の友達など）から問題点を聞いたところ、学習者は周りの日本人に与えている印象に気づいていないのではないかという声が多くあった。それで、学習者自身が不利益と感じているより、日本人側から、学習者が不利益を被っていると感じた場面を取り上げた方が目的にかなうのではないかと認識し、アンケート作成は中止した。そして、学習者が自分の発話について周囲の日本人に聞く方式に変更した。

学習者の日本語を日常的に訂正できる存在は、学習者の周りには日本人だろう。そうした日本人3人に学習者の発話した日本語がどのような印象を与えたかについてアンケートを取り、またコメントももらうことが筆者より提案された。同様な場で周囲の日本人などのように発話するか、さまざまな面から検討した。

学習者自身がアンケート調査することで、自らが誤用に気づいたり、同じことを言うにも、さまざまな言い方があることに気づいたりすることが大切ではないかと考えた。それを繰り返すことで、日本人に聞くことが習慣となり、学習者に自立した学習をする素地が育っていく。また、周囲の日本人も、学習者の日本語が正しいかどうか聞く耳が育つ。そして、学習者とその日本人は定期的に日本語を直し直される関係が構築できる。学習者は毎回指摘されたことを自分で記録していくことにより、自分だけの日本語のオリジナルテキストが作られていくわけである。

しかし、この方法には次の問題点が考えられる。

- (1) 日本語教師ではなく、周りの日本人に聞くことで、日本人が間違った日本語を見逃したり、日本人自身が間違った日本語を使っていたり、教えていたりしてしまう場合。
- (2) 学習者の周りにアンケートを託せる日本人が3人も存在しない場合。
  - (1) については日本人3人が全員その間違った表現をよしとしたのなら、その地域、その年代で使われている日本語として学習者も学んでよいと考える。テキストで学んでいるうちは教師の多方面からのアドバイスも受けられるが、教室を終了した後は、周囲の日本人しか判断材料はなくなるわけなので、積極的に周囲の日本人の判断に任せることになる。
  - (2) については最初のうちは教師がその日本人役を務める。テキストを進めながら意図的にアンケートのための日本人の知人を作るような指導が必要である。それが地域



で生活していく新しい人間関係の構築につながっていく。  
以上のことを配慮しながらサンプルの作成を試みた。

## 5. サンプル作成

### 5.1. テキスト使用の対象者

筆者が一番会う機会の多い学習者で、初級が終了して、コミュニケーションがある程度取れているが、日本人との付き合いで日本語を使用することで問題が起きる可能性がある者として考えたとき下記の条件が当てはまる。

- 1) 定住外国人（女性）
- 2) 来日1年以上で、日常的なコミュニケーションには支障のない人

### 5.2. テキストの特長

市販のテキストとは構成を異にし、主な特長は学習者の周りの日本人にアンケートを取ることによって自分の日本語を客観的に捉えられるように導くことである。

- (1) 場面の提示は絵で行う。文字だけを使うとどうしてもその言葉の影響を受けるので、関係（上下、内外）を明らかにして、絵だけを見て会話がスムーズに行われるのが望ましい。
- (2) 学習者の学習パターンを習慣づけられるように、各課の構成はだいたい同じようにする。5.3.にあるように各課6つのコーナーで構成される。
- (3) 課によっては、発話の意図は同じでも色々な表現があることを紹介し、その違い（印象・効果）を知る。
- (4) 本篇の最初の課に入る前に周りの3人へのアンケートをするトレーニングのコーナーがある。
- (5) 最終の課では自分の生活の中から自ら場面を抽出して分析できるように導いていく。

#### 5.3.1 課の構成とその使用方法

1課は次の6つの部分で構成している。最初にいつも使っている日本語を自分で認識できるように導き、それが他の人にどのように受け取られるのかを知り、その場面、会話にまつわる知識を増やしていくという流れである。（具体例は資料を参照）

- (1) 「いつも使っている日本語」

AさんとBさんの立場、場面を理解した上でBさんの台詞を話し、その台詞を記入する。そのときに学習者が自分の日本語の間違いに自ら気づいたり、上手に話せないことに気づいたり、もっといい表現はないかと考えたりする。学習者の気づきを重要な目的とするコーナーである。

- (2) 「日本人3人にBの表現について聞きましょう」

自分の使っている日本語が正しく伝わっているか、他人にどのような印象を与えているか、周りの日本人3人に聞く。聞いた結果から、学習者は自らの日本語を客観的に評価する。その結果、学習者が今まで使っていた日本語が正しかったと安心したり、

反省したり、自ら直したり、適切な表現方法を選んで、それを習得できたりする。

(3) 「落とし穴」

間違いやすい表現の使い分けができていないか、自分の判断が正しいか、周りの日本人に聞く。聞いた結果から、自分の判断を自ら評価する。

(4) 「言いかえアラカルト」

同じような場面で、人間関係が違ったとき、表現の使い分けができていないか確かめたり、適切な表現が使えるか、試してみる。

(5) 「使える表現」

同じような場面で、知っていれば便利な他の表現を紹介しているので、学習者は自分の知識と照らし合わせたり、新たに学習したりする。

(6) 「会話練習」

同じような場面で上下、親疎など多様な人間関係にし、状況の会話を提示し、場面に対応した表現の選択を意識しながら会話をする。内容も発展させ、長い会話をする。そのときの学習者自身の発話を意識化し、不安な部分は記録する。

授業は(1)「いつも使っている日本語」全体と(3)「落とし穴」の前半の質問に答えるところまでで終わり、(2)「日本人3人にBの表現について聞きましょう」や(3)「落とし穴」の日本人に聞く箇所は宿題にする。次回の授業は日本人向けのアンケートに対する学習者の感想を聞くところから始まる。

このテキストを使用しながら自立学習に移行する過程におけるテキスト・教師と周りの日本人の存在の大きさのイメージを図1に示す。

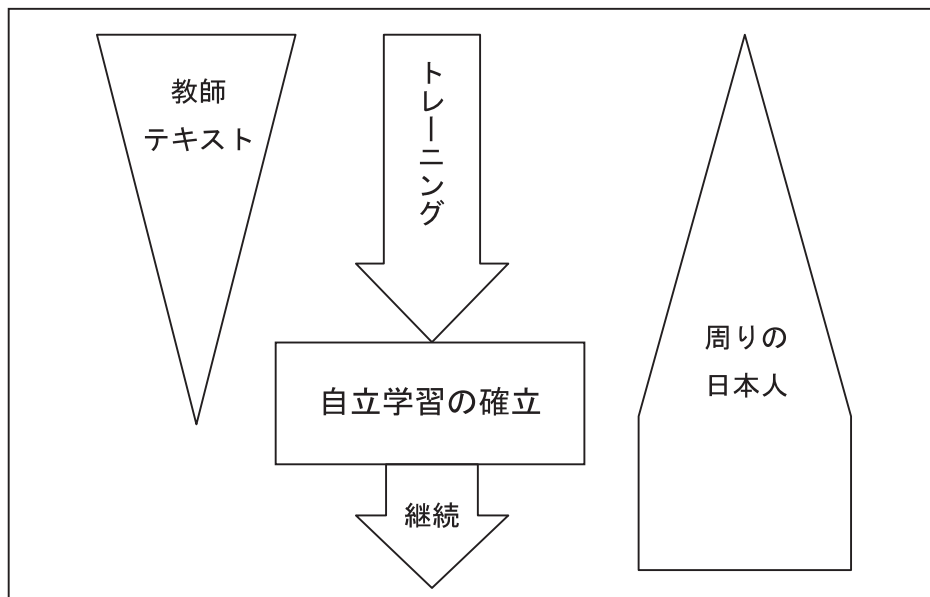


図1 テキスト・教師と周りの日本人の存在の大きさのイメージ

## 6. おわりに

筆者が関わっている日本語学校や地域の日本語教室には、来日後間もなく、日本語を早く習得したいという学習者が多く通っている。一方、来日してから何年もたっていて、日常会話はもう不自由のない学習者も多くいる。しかし、後者も、自分の使っている日本語に不安を感じているのだ。彼女たちが日本語教室に来なくても自分自身で自分の日本語を磨ける方法はないかと考えるようになった。

市販のテキストを部分的に直して目的にかなうなら、わざわざ新しいテキストを作らなくてもいい。しかし、いろいろ試してみたが、うまくいかない。そこからテキスト作成は始まった。

この自立学習は、日本人からのコメントを読んで気づいたり、学んだりしたことを学習者が自分なりのノートに蓄積していき、最終的に、学習者が自分の学習記録を作成できるようにすることを目指している。テキストはその前段階を担うものである。学習者は、この学習活動を通して、日本語を訂正してもらえ人間関係を作る。日本語を訂正される時間を作る。学習者が新たに習得した適切な表現方法を実生活で使用した結果を確かめる。再度同じ場面に遭遇したとき、前に使っていた表現ではなく、新たに習得した日本語を意識して使って、相手の反応を探る。または聞いて確かめる。このような一連のことも一緒に学習者の生活の中に埋め込まれればいいと考える。

現在は同じフォーマットにのっとなって色々な場面、文化的な問題を含んだ内容のものを増やしている段階である。できたものから実践してみて、修正を加えていく考えである。

まだまだテキストは作成途中で、学習者の自立学習までは長い道のりである。しかし、テキスト完成後は学習者に対する教師としてではなく、ともに地域で暮らす隣人として、日本語の不安を取り除く手伝いをしていきたい。

### 参考資料

- 荒井礼子・太田純子・亀田美保・木川和子・桑原直子・長田龍典・松田浩志（1991）『テーマ別中級から学ぶ日本語』 研究社
- 小山悟（2002）『ジェイ・ブリッジ』 凡人社
- 財団法人海外技術者研修協会（AOTS）（2000）『新日本語の中級』 スリーエーネットワーク
- 土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・鶴尾能子（1995）『日本語中級J301』 スリーエーネットワーク
- 中居順子・近藤扶美・鈴木真理子・小野恵久子・荒巻朋子・森井哲也（2005）『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』 スリーエーネットワーク
- 星野恵子・遠藤藍子（2004）『日本語集中トレーニング』 アルク
- ボイクマン総子・宮谷敦美・小室リー郁子（2006）『聞いて覚える話し方 日本語生中継』 くろしお出版

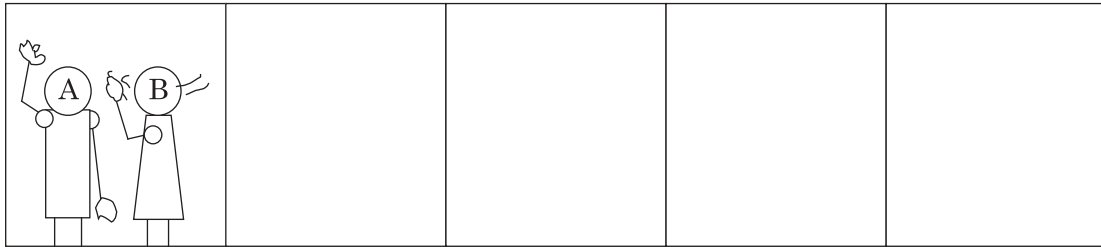


資料 テーマ《引き受ける》

1. いつも使っている日本語

あなたはBさんです。Aさんは知り合いです。Aさんから、あなたの国の言葉を勉強したいと言われました。引き受けてください。でも今週は忙しいです。来週は時間があります。

(\*絵は手描きのものを用意する予定)



A 今、忙しいですか?      A 実は、Bさんの国の言      A 教えていただけません      A 簡単なあいさつ程度で      A 来週でもかまいません。  
 B \_\_\_\_\_      B 葉を勉強したいんですが。      B か。      B いいんです。      B \_\_\_\_\_

2. 日本人3人にBの表現について聞きましょう。

	さん	さん	さん
完璧			
もうちょっとで完璧			
意味はわかるがちょっと変			
意味がわからない			

コメント

[ ]

3. 落とし穴

次の「あげる」の表現は使いますか。

- ①A：これは、おいしいお菓子だね。  
 B：先生、これ、良かったらあげますよ。
- ②A：おかあさん、このゲームほしいなあ。  
 B：じゃ、今度の誕生日に買ってあげるね。
- ③A：今度、リンさんに日本語を教えてあげるの。  
 B：へえ、それはよかったね。
- ④A：仕事が忙しいので、土曜日にも出勤してもらえませんか。  
 B：分かりました。出勤してあげます。

1) 日本人3人に①～④の表現を使うかどうか、聞いてください。

	あなた	さん	さん	さん
①				
②				
③				
④				

コメント

2) あなたは①～④の表現を使いますか。①～④の会話を聞いてどう思いますか。

3) 「あげる」を使えないのは、どんな場合ですか。

4) ①～④の表現で「あげる」を使えないものはどれですか。どう表現したらいいですか。

#### 4. 言いかえアラカルト

①A：ちょっと手伝ってもらえませんか。

B：すみません、今、手が離せません。終わったら手伝ってあげますよ

②重い荷物を持っている人に、「持ってあげましょうか」

③A：ぎょうざ、おいしいですね。作り方を教えてください。

B：今、時間がないので、後で教えてあげます。

#### 5. 使える表現

①謙虚な印象で引き受けるとき

自信がありませんけど…

私なんかでよければ…

上手にできないかもしれませんが…

②頼まれたことがうれしいとき

喜んで引き受けさせていただきます。

#### 6. 会話の練習

①「料理を教えてください」と頼まれました。

②アルバイトの手伝いを頼まれました。

③ベビーシッターを頼まれました。

④????